

第3学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子18名 女子17名 計35名

指導者 本田 康幸

1 題材 ドレミで歌おう

教材 ドレミあそび

「ドレミで歌おう」 小原 光一 作詞 作曲者不明

「海風きって」 高木あきこ 作詞 石桁冬樹 作曲（本時主教材）

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第2学年題材「ドレミであそぼう」において、体を動かしながら階名唱したり鍵盤楽器を演奏したりする活動を通して、階名と音の高さとの関わりを感じ取りながら表現することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、様々な曲を階名唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、五線譜上の音符と音の高さとの関わりを感じ取り、階名唱したりふしづくりをしたりする活動を通して、拍の流れを感じ取りながらハ長調の階名で表現する能力を育てるとともに、ハ長調を階名視唱することに関心をもち、階名と音の高さとを結び付けてとらえる能力を高めることをねらいとして、本題材「ドレミで歌おう」を設定した。

ここでの学習は、リズムや旋律の感じを生かした演奏を工夫する能力を育てる第4学年「ふしの感じを生かしてⅡ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れを感じて音の高さを感じ取りながらハ長調の階名で表現する能力を高めるためには、階名模唱や階名暗唱を通して階名唱に親しませ、体を動かしたり鍵盤楽器で演奏したりして階名と音の高さとの関係付けてとらえさせることが効果的である。特にこの期の子どもたちには、体を動かしながら五線譜上の音符と音の高さの関係を実感することが大切である。

具体的には、まず、ドレミあそびで、五線譜に対する理解を深めることができるように、拡大五線譜やワークシートで音符の位置と階名、五線や縦線、ト音記号について、拡大五線譜の上で動いたり指でなぞったりして音の移り変わりをとらえさせ階名視唱につなげていく。

次に、「ドレミで歌おう」を取り上げる。この教材は、順次進行の旋律を歌詞唱して音の高さをとらえたり、鍵盤ハーモニカで指くぐりや指またぎの奏法を使ってスムーズに演奏することを身に付けさせたりするのに適している。そこで、ここでは、拡大五線譜を使ったりドレミ体操を取り入れたりしながら階名唱や分担唱など子どもたち同士のかかわりをもたせた活動を設定し、音の高さを感じ取りながら音程に気を付けながら階名唱できるようにする。

さらに、「海風きって」を取り上げる。この楽曲は、子どもたちが歌詞を基にして海の様子をイメージしやすく、簡単なふしづくりができる教材である。そこで、ここでは、海のような様子の写真やイラストを見せ、イメージ作りの参考にさせる。また、体を動かして音の高さの変化を視覚的にとらえ、考えているイメージと自分や友達の演奏を関係付けながら階名唱や鍵盤ハーモニカで演奏することができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、階名唱したり楽器で表現することに関心・意欲を高め、音程に気を付けながら階名視唱したり鍵盤ハーモニカでの演奏やふしづくりをしたりしようとし、楽しく音楽とかかわっていかうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 3年ろ組 男子18名 女子17名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①「ドレミで歌うことは好きですか。」

はい（３３） いいえ（２）

② その理由を答えてください。（複数回答）

【「はい」の理由】 ・楽しい（２０） ・分かりやすい（８） ・音楽が好き（３）
・リズム感がつく（３） ・声に出すのが好き（３）

【「いいえ」の理由】 ・むずかしい（２）

③ ドレミで歌うことのよさはなんですか。

・楽器でひけるようになる（２２） ・おぼえやすい（５）
・音程がわかる（４） ・歌が上手になる（３） ・リズムがよくなる（１）

④ 「かえるのがっしょう」をドレミで歌いましょう。

・階名・音程に気を付けて歌える（３２） ・階名・音程に気を付けて歌えない（３）

⑤ 提示された旋律の階名を答えることができる。（ドレミレミ）

・できる（１２） ・できない（２３）

⑥ 提示された旋律について体を動かしながら歌うことができる。（階名視唱：ドレミレミ）

・音の高さの上がり下がりや体の動きで表現できる（２６） 表現できない（９）
・音程を付けて歌うことができる（９） できない（２６）

①②から、子どもたちの多くが階名で歌うことを楽しく感じ、階名で歌うことに抵抗を感じていないことが分かる。一方「好きではない」と答えた子どもたちは、階名暗唱の難しさを不安の理由に挙げている。暗唱する際の記憶が曖昧で階名を誤ってしまうことが要因である。

③から、階名を覚えることで楽器を弾く際に便利であることを中心に挙げている子どもが多く、歌唱におけるよさを考える子どもは少ない。その要因としては、階名に対応させて音の高さを上げ下げすることで旋律の移り変わりを表現できる階名視唱のよさを実感する経験が少ないからであると考えられる。

④⑤⑥から、既習曲については階名暗唱できているが、五線譜に関する学習は未履修であり、階名を答えられる子どもが一部である。また、提示された五音の階名視唱を行うことができた子どもは少ないが、旋律線の上がり下がりや体の動きで表現することができる子どもは多かった。これまで階名模唱により階名唱をしてきた経験が多く、階名視唱を行う際の要領を得ていないことが要因と考えられる。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導にあたっては次のようなことに留意したい。

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、五線譜の仕組みを理解したり階名唱に関心・意欲をもたせられるように、既習曲を階名唱させ階名のことについての関心をもたせたり、拡大五線譜上で少ない音の数を使った旋律の演奏に合わせて動いたりする活動を取り入れる。その際、グループ内での動きの見取りにより理解を深めさせることができるようにする。

イ 課題追求Ⅱの過程では、拡大五線譜やワークシートで体を動かしながら旋律の動きを把握できるようにするとともに、ドレミ体操を取り入れ音の高さを感じ取ることができるようにして旋律把握ができるようにする。さらに、階名暗唱しながら鍵盤ハーモニカでの演奏を行うことができるようにする。

ウ 課題追求Ⅲ・まとめの過程では、拍の流れや音の高さを感じ取りながら表現することができるようにするとともに、**自分が考えたいかや波、船等のイメージと旋律の音の移り変わりを音の高さによって関係付けさせ、楽しくふしづくりをすることができるようにする。**その際、イメージをもってふしづくりに取り組めるように画像を準備したり取り組もうとしている課題別にグループを作って旋律の動きの共有化を図ったりする活動を取り入れる。

3 目 標

- (1) 階名と音の高さとのかわりやハ長調の階名唱に関心を持ち、音程や拍の流れに気を付けて演奏できているかを振り返りながら、階名唱やふしづくりの活動に進んで取り組むことができる。
- (2) ドレミ体操や階名の分担唱、ふしづくりなどの活動を通して、階名と音の高さとを関係付けてとらえることができる。

- (3) 拍の流れや音の高さを感じ取りながらハ長調の階名視唱をしたり、鍵盤ハーモニカで旋律を演奏したりつくって演奏したりすることができる。

4 指導計画（全 7 時間）

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ
課題把握	1	「ドレミあそび」	ドレミで歌ってあそぼう。	○ 五線譜に対する理解を深めさせるために、拡大五線譜やワークシートで音符の位置と階名、五線や縦線、ト音記号について、拡大五線譜の上で動きながらとらえる活動を設定する。 ○ 音の高さを感じ取りながら階名唱させるために、動きの高さと音の上がり下がりを見取る活動を取り入れ、階名の関係と音の上がり下がりに関係付けられるようにする。 ○ 階名唱のよさを感じ取らせるために、階名唱の部分単音で歌う場合と階名唱で歌う場合とで比較する活動を設定する。 ○ 指くぐりや指またぎの奏法を身に付けさせるために、友達同士で運指を確認したり速度を変えて演奏をしたりする活動を設定する。 ○ 前後半での受ける感じの違いを考えられるように、リズムについて比較させる活動を設定する。 ○ 鍵盤ハーモニカで後半部分を演奏しやすいように、体を動かしながら階名唱し、音の高さに合わせて上下に動かす活動を設定する。 ○ 鍵盤ハーモニカでの演奏がしやすいように、役割分担で階名唱を隣でさせたり階名暗唱を生かして演奏させたりする活動を取り入れる。 ○ 音の高さの上がり下がりを感じさせるために、教師の例と自分でつくったふしを階名唱しながら音の高さで比較して音の高さを感じる活動を設定する。 ○ イメージしながらふしをつくる楽しさを味わわせるために、相互発表・鑑賞では、同じ旋律で違うイメージの場合や同じイメージで違う旋律になっている場合等でも発表させ、それぞれの考えを出させてから演奏をさせる。
課題追求Ⅰ			○ ドレミの交互唱をする。 ○ 五線譜の仕組みについて話し合い、拡大五線譜の上で遊ぶ。 楽譜が分かってうれしいな。	
課題追求Ⅱ			ドレミ体そうをしたり、五線ふの上でうごいたりしながら歌おう。 ○ 「ドレミで歌おう」の範唱を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ ドレミ体操をしたり拡大五線譜上で遊んだりしながら歌詞唱する。 体を動かすことで、音の高さを感じ取ることができたよ。	
	2	「ドレミで歌おう」	みんなで楽しく歌っている感じを生かして、けんぱんハーモニカで演奏しよう。 ○ 階名暗唱を生かして鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ スムースに演奏するために、指くぐりや指またぎの仕方を考え、練習する。	
	3		二つのふしのかんじのちがいを生かして、歌おう。 ○ 「海風きって」を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ アとイの感じの違いについて話し合ったり違いに気を付けて階名唱したりする。 ドレミで歌うとふしのながれが何となくわかるね。	
	4		リズムよく鍵盤ハーモニカでえんそうして合わせよう。 ○ 拍の流れを感じ取りながら、後半部分をリズムよく鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 役割を分担して階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりして前後半をつなげて演奏する。	
課題追求Ⅲ	5	「海風きって」	海のように合うようなふしをつくらえんそうしよう。 ○ 海の様子をイメージしながら、ふしづくりをし、階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりする。 ○ できたふしを発表し合う。	
	6（本時）		つくったふしの発表会をしよう。 ○ 同じ旋律や違う旋律、同じまたは違うイメージの友達と発表し合う。 ○ 学習のまとめをする。 ・ ドレミが分かるとふしのかんじも分かってうれしいな。 ・ ドレミで歌えると歌もがっきのえんそうもしやすいね。	
まとめ	7			

5 本 時 (6 / 7)

(1) 目 標

海の様子を生かしたふしづくりや五線譜への楽譜の表記の仕方に関心をもち、音の高さの移り変わりをいるかや船の動きの上下動と関係付けながらふしをつくり、つくったふしを階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

ふしづくりに用いる音の高さの相互関係を視覚的にもとらえさせ階名唱することのよさを感じさせるために、教師の例や友達のふしと自分のつくったふしをいるかや船の動きのイメージの高低差を観点として比較させながら階名唱や鍵盤ハーモニカでの演奏を行わせる。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 教師のつくったふしを階名唱し、鍵盤ハーモニカでの演奏と比べ、ふしづくりの意図を話し合う。	(分)	○ 階名視唱することへの関心をもたせるために、つくったふしを鍵盤ハーモニカで演奏する前に階名視唱をし、演奏と比較する活動を設定する。
課題追求	思いや意図 音楽設計図	8	○ いるかや船の様子に合わせて音の高低差を選んでいく仕組みに気付かせるために、旋律に合わせて体を動かす活動を取り入れたりいるかや船の絵を動かしたりする活動を設定する。
表現の工夫	2 本時の学習について話し合う。 海のように合わせながらふしをつかってえんそうしよう。 3 ふしづくりの基になる「海のように」を決め、選んだ5音の旋律を階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりする。 音楽を形づくっている要素を基に比較 自分のふし ← 音の高さ → 教師や友達のふし 元気にはねる感じしたいけどどうしようかな。 私は、2回ジャンプするために高い音への変化を2回にしたよ。 ぴょんぴょんといくから元気があるね。レソドソドにしてみようかな。 元気があるようにするのに、長くジャンプするという考え方も面白いな。レソソミドにしてみようかな。	31	○ 自分なりに設定したいいるかや船の上下動の様子と旋律の音の高さの動きを関係付けてふしづくりができるように、絵を動かしたりワークシートに動きを絵で描いたりする活動を設定する。
相互発表・鑑賞	6 相互発表・鑑賞する。		○ 階名唱を通して五線譜上での関係を確認したり5音の高さの相互関係を理解したりさせるために、教師の例や友達の旋律と自分の試してつくった旋律とを音の高さで比較しイメージに合う旋律になるようにする。
まとめ	・ 同じ音をえらんでもようすがちがうようにつくることができて面白いな。 ・ 音の高さを変えて歌ったり演奏したりできたよ。 7 学習のまとめをする。 ・ 音の高さをかえながら海のように合うようなふしをつかってドレミで歌ったり楽器で演奏したりできたよ。	6	○ 友達の発想のよさに気付かせるために、設定する海の様子を状況に応じて複数設定させ、共通点や差異点を見付けさせる活動を設定する。
			○ それぞれの表現のよさを感じ取ることができるようにするために、相互発表・鑑賞する場を設ける。
			○ 階名唱のよさや五線譜に表すことのよさをまとめさせるために、友達との学習で気付いたことや感じたこと、音符の表し方で発見したことを中心に発表させる。